

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
我孫子駅南東地区

平成26年9月

千葉県我孫子市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	インフォメーションセンター利用者数	人/年	8,451	11,000	31,732	確定	○	あり ●	31,519	平成26年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	文化ポイントや散策路、サインなどを整備したことで文化ポイントの魅力が向上したのに加え、インフォメーションセンターで観光スポットをはじめとした様々な観光情報の発信が利用者の増加につながった。また、アビシルベまつりなどのイベント会場や音楽演奏ステージとしての活用によりインフォメーションセンターの認知度が高まった。
						見込み ●	△	なし			△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。特に杉村楚人冠記念館とその庭の部分にあたる明田緑地を公開したことにより、来訪者の増加につながった。目標値にはやや届かないものの、来訪者は増加しており、一定の成果が得られた。
指標2	文化ポイントへの来訪者数	人/年	11,400	16,500	14,513	確定	○	あり ●	14,710	平成26年4月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。こうした文化ポイントが総合学習や地域学習、キャリア教育などの場として活用され、来訪者数の増加につながった。また、子ども向けの企画展やイベントなどのソフト展開を実施することにより、一般の子どもの来訪者も増加した。
						見込み ●	○	なし			○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。こうした文化ポイントが総合学習や地域学習、キャリア教育などの場として活用され、来訪者数の増加につながった。また、子ども向けの企画展やイベントなどのソフト展開を実施することにより、一般の子どもの来訪者も増加した。
指標3	子どもたちの文化・歴史接触度	回(人)/年	6(264)	14(420)	23(469)	確定	○	あり ●	33(674)	平成26年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。こうした文化ポイントが総合学習や地域学習、キャリア教育などの場として活用され、来訪者数の増加につながった。また、子ども向けの企画展やイベントなどのソフト展開を実施することにより、一般の子どもの来訪者も増加した。
						見込み ●	○	なし			○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。こうした文化ポイントが総合学習や地域学習、キャリア教育などの場として活用され、来訪者数の増加につながった。また、子ども向けの企画展やイベントなどのソフト展開を実施することにより、一般の子どもの来訪者も増加した。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	ふるさと産品の品数	品	8	/	17	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	ふるさと産品は、地域の特色を生かした商品であり、商業者との連携により、品数を増やすことができた。
その他の数値指標2	インフォメーションセンターと文化ポイントでのイベント数	回	5	/	36	確定 ●	/	/	37	平成26年4月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地域の魅力を発信する機会が増えたことにより、交流人口の増加につながった。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
			/	/	/	見込み ●	/	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	来訪者数や賑わいの持続	インフォメーションセンターでは、アビシルベまつりなどのイベントを実施するとともに、SNSやホームページ、広報誌による情報発信を行った。 また、白樺文学館、杉村楚人冠記念館、鳥の博物館を1枚のチケットで入館できる共通券の販売を開始した。	インフォメーションセンターや文化ポイントについて広く周知することができた。	さまざまなイベントや文化ポイントとの連携を図るなど、来訪者が繰り返し訪れるような工夫が必要である。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	白樺文学館の施設や設備の再整備	来館者の誘導表示の設置、受付位置の変更、入り口玄関前の花壇の整備などを行った。	来館者の適切な動線を確保するとともに、初めて訪れる方でも入館しやすい雰囲気をつくることができた。	旧所有者である個人から寄贈された白樺文学館については、来訪者数が減少傾向にあることから、その魅力向上に向けてソフトの充実を図るとともに、来館者の円滑な動線確保や設備の充実を図るなど、施設の再整備が必要である。
	杉村楚人冠記念館と旧村川別荘の計画的な修繕	腐朽損壊箇所やそのおそれのある箇所について抽出し、優先度をつけて修繕を実施した。	来館者が安全に施設を見学できるようになった。	専門家による定期的な建物調査などを実施し、修繕の必要な箇所を早期に発見し、対応していく必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的な内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(第5回変更)

あ び こ え き な ん と う
我孫子駅南東地区

ち ば け ん あ び こ し
千葉県 我孫子市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	我孫子市	地区名	我孫子駅南東地区	面積	141 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標

来訪者の流入を促し交流できる環境を整えるとともに、手賀沼という豊かな水辺に集った先人たちの足跡を掘り起こし、知らせ、「昔」の知恵を“今”に活かすまちづくりを行う。また、これにより市民、来訪者、消費者、生産者、子ども、若者、大人など立場を超え世代を超えた交流を促進し、まちの活性化を図るとともに心豊かなくらしを実現する。
 大目標：地域資源の魅力向上と交流の促進
 目標1：文化・歴史・自然を活かしたまちの魅力向上
 目標2：魅力発信と交流促進によるまちの活性化
 目標3：未来を担う次世代への継承

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
 【これまでの経緯】
 ・我孫子市内には、古墳や郡衙などの遺跡、戦国時代の城跡、江戸時代の宿場、大正時代の別荘、文人たちの旧居など、多時代に亘る数多くの史跡が、沼と樹林地、丘陵と一体となって所在している。特に我孫子の象徴でもある手賀沼沿い(当地区)には、水辺の豊かさを求めて移り住んだ先人たちの足跡が時代を超えて残されている。これまで我孫子市では、必要に応じて志賀直哉邸跡や旧村川別荘、嘉納治五郎別荘跡などの重要な史跡を個々に買収、保存してきた。
 ・これら史跡の周辺には、手賀沼をとりまく低湿地から台地への地形、農が永々と営まれている広大な水田、昔ながらの景観を髣髴とさせる斜面林など貴重な自然が残されている。こうした市街地の緑地についても、必要に応じて個々に買収、保存してきた。
 ・まちの中心市街地でもある我孫子駅前(南側)は、大型商業施設と個人商店の集積があるが、モータリゼーションの進展や商業施設の郊外化の流れ、隣接市に大規模な商業エリアがあることなどから下降傾向である。また、我孫子駅周辺には、近年次々と大型マンションが建設され、この新たな大規模コミュニティの発生が、住民意識の乖離やコミュニティの分断、地域意識の薄さなどの誘因となっている。
 【計画等における位置づけ】
 ・「我孫子市第三次総合計画」において、このエリアは、我孫子市の玄関口、顔としての位置づけがなされている。
 ・総合計画にぶらさがる部門別計画として「手賀沼文化拠点整備計画」を、市民委員等を含めた半年間33回の会議を経て、平成19年7月に策定、それを受けた実行計画を平成20年2月に策定した。当該計画は、計画期間が平成21年度から平成30年度までの10年間で推進することとしており、そのうち前期5年のエリアがこの都市再生整備計画エリアとオーバーラップしている。また、我孫子市第三次総合計画第二次基本計画においては、この手賀沼文化拠点整備計画の推進が位置づけられている。
 ・平成12年9月策定の「手賀沼農舞台計画」により、地産地消の推進や、観光農園など農を通して人々の交流を生む事業の展開、我孫子ならではの農を推進するエリアとしての位置づけもなされている。
 ・国土交通省等が実施した「富士見百景」、及び「美しい日本の歴史的風土100選」の準100選に、エリア南側が選ばれている。
 【現状での取り組みなど】
 ・千葉県で平成19年度に推進したディスティネーションキャンペーンにおいては、文化や歴史のポイントを活かした取り組みや、水辺でのイベント、市民との共同による積極的な運営・展開が進められた。
 ・近年、市民による観光ボランティアガイドの増加や、市民活動による文化財の維持などへの支援、商店会での祭りなどにぎわいづくりの取り組み、景観作物の栽培によるイベント、地元農産物の直売など、文化・歴史・自然の要素を活かして、まちを活性化しようという機運が盛り上がりつつある。

課題
 我孫子市は東西約15キロの細長い地形で、地域ごとに独自の文化・歴史を営んできた。昭和30年代後半以降、東京のベッドタウンとして開発が進み、マンション群や新たなコミュニティが生まれている。それに伴い、新旧住民の年齢構成の差異、意識差などの問題も生じている。そのような状況のもと、各地域に所在する歴史的な建造物、遺跡、それを支えてきた人々の足跡、現在まで営まれている活動などの「地域資源」を利用することは、居住地域や年代を超えた市民の交流と相互理解を促進すると考える。そのためには、次の課題を解決する必要がある。
 ① 史跡・遺跡などの地域資源そのものの魅力を向上させる施設整備
 ② 点在する地域資源を結ぶ道路や案内施設の整備
 ③ 来訪者に地域資源の魅力について情報提供するしくみ
 ④ 来訪者のニーズを探り、新たな魅力を創出するしくみ
 ⑤ 我孫子の文化を次代につなげる手段を創出するしくみ
 →これらの課題解決により、地域資源の有効活用、市民の交流促進と来訪者増、商業・農業の活性化につながって、ひいては市の財政基盤強化と市民生活の向上を実現するものとする。

将来ビジョン(中長期)
 ・我孫子市第三次総合計画(平成12年9月策定)の基本構想では、20年後のまちの姿を、「自然環境を文化に高めるまちへ」、「お互いを思いやる心で元気なまちへ」、「出会いと交流で活力を生むまちへ」と定め、さらに我孫子の将来都市像を『手賀沼のほどり 心輝くまち ～人・鳥・文化のハーモニー』として全市共通の目標に掲げている。そして、この都市再生整備計画エリアを含む我孫子及び天王台地区においては、それぞれ「ゆとりと若さが出会い、自然と歴史が人を結ぶまち」、「こころが温かく芽吹き、くらしの中に躍動があるまち」としている。
 ・都市計画マスタープラン(平成14年3月策定)では、市街地ゾーンの形成において、自然、歴史、地形などの特性を活かした日常生活を支える機能の集積を図り、魅力ある拠点づくりを進めるものとしている。特に、我孫子駅周辺から手賀沼公園周辺を市のシンボルとなる中心拠点として位置づけ、連続的に魅力的な空間づくりを進めると位置づけている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1.インフォメーションセンター利用者数	人/年	我孫子インフォメーションセンターの利用者数を年間でカウントしたもの。	情報発信の効果をはかるものとして、インフォメーションセンターでの実績をもって評価する(従前値は我孫子行政サービスセンターにおける取扱業務以外の観光など「その他の問い合わせ」件数)。	8,451	平成19年度	11,000	平成25年度
2.文化ポイントへの来訪者数	人/年	杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸、白樺文学館への年間の来訪者数を合算したもの。	歴史的・文化的資源の活用によるまちの活性化、交流の促進の効果をはかるものとして、各文化ポイントでの来訪者数の増加により評価する。	11,400	平成19年度	16,500	平成25年度
3.子どもたちの文化・歴史接触度	回・人/年	子供向けのイベントや、近隣の小学校、中学校における総合学習などの時間を活用した、史跡や文化財への来訪による地域学習の授業などの回数。	未来を担う次世代への継承の可能性をはかるものとして、子どもたちが地域の歴史や文化財に触れる機会の回数及び人数で評価する。	6回(264人)	平成19年度	14回(420人)	平成25年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:手賀沼のほりにある文化・歴史・自然環境にかかわるポイントをネットワーク化し、市民を含む多くの来訪者が我孫子の豊かさを実感できる空間を創り、我孫子の魅力向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 各文化ポイントをネットワーク化する“道”や“サイン”の整備を行う。 来訪者が散策・回遊しやすいように、散策マップやさまざまなルートの設定・提案、ガイドなどの整備を行う。 多くの人を呼び込むことのできる魅力的な文化ポイントの整備・活用を進める。 	<p>散策路の整備(基幹事業:道路)、杉村楚人冠邸の保存と活用(基幹事業:公園、提案事業:地域創造支援事業)、嘉納治五郎別荘跡地の保存と活用(基幹事業:公園)、寿古墳公園の整備(基幹事業:公園)、旧村川別荘の再整備・活用(提案事業:地域創造支援事業)、子ノ神緑地の整備(基幹事業:地域生活基盤施設)、サインの整備(基幹事業:地域生活基盤施設)、湧水スポットの整備(提案事業:地域創造支援事業)、志賀直哉邸跡の再整備と活用(提案事業:地域創造支援事業)、史跡文化財案内冊子の作成(提案事業:地域創造支援事業)</p>
<p>整備方針2:我孫子ならではの文化・歴史・自然環境を活かして訪れた人の知的好奇心を満たし健康と癒しの空間を創り、広く情報発信を行うことによる交流の促進と地域の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの人を呼び込むことのできる魅力的なポイントづくりを行い、交流を促進する。 来訪者に対するおもてなしの充実や交通の利便性の向上を図る。 各文化ポイントの魅力を生かして市内外に向かって情報発信する。 我孫子駅を中心とした情報発信や交流促進の環境を整える。 	<p>杉村楚人冠邸の保存と活用(基幹事業:公園、提案事業:地域創造支援事業)、嘉納治五郎別荘跡地の保存と活用(基幹事業:公園)、旧村川別荘の再整備・活用(提案事業:地域創造支援事業)、サインの整備(基幹事業:地域生活基盤施設)、我孫子インフォメーションセンターの整備(基幹事業:高次都市施設)、湧水スポットの整備(提案事業:地域創造支援事業)、史跡文化財案内冊子の作成(提案事業:地域創造支援事業)、都市計画道路の整備(関連事業)、</p>
<p>整備方針3:魅力向上と交流の促進を通して、次代を担う世代が我孫子のよさを継承できるよう、文化・歴史・自然環境を未来へ伝え遺していく</p> <ul style="list-style-type: none"> 我孫子の歴史やこれまで育まれてきた文化を子どもを含めた多世代に亘る市民などに知らせる場の整備を行い、学び楽しめるようにする。 子どもを含めた多世代に亘る市民などに向けた情報発信を進め、視覚的に体験的に学べる環境を整える。 	<p>杉村楚人冠邸の保存と活用(基幹事業:公園、提案事業:地域創造支援事業)、嘉納治五郎別荘跡地の保存と活用(基幹事業:公園)、我孫子インフォメーションセンターの整備(基幹事業:高次都市施設)、旧村川別荘の再整備・活用(提案事業:地域創造支援事業)、史跡文化財案内冊子の作成(提案事業:地域創造支援事業)、白樺文学館の運営(関連事業)</p>

その他

○市民活力を活かして

- 平成18年度から旧村川別荘においては、市民のボランティアによるガイドが開始されている。この市民ガイドでの実績、経験、課題などを踏まえて、さらに他の文化ポイントへ、さらにコースをガイドするというように活動を広げていく取り組みを行う。
- 計画策定においては、公募の委員3名、市民団体等の代表として12名の計15名の市民に計画策定から参画してもらった。さらに、今後、計画実施の段階においても大いに市民との協働を進め、より地元密着の事業展開をすすめる。

○各文化ポイントにおけるソフト展開について

- 商工会等との連携において、来訪者に対するおもてなしのしくみづくりをすすめる(トイレの無料貸し出し、商店のミニ案内基地機能、各種イベントの実施など)。
- 運輸事業者等との連携において、来訪者に対するおもてなしのしくみづくりをすすめる(バス・タクシー・鉄道における情報発信、観光タクシーの実施、運転手への地域を知ってもらう取り組みなど)。
- 鉄道事業者との連携において、歴史的・文化的地元資源の活用をすすめる(駅付近における情報発信、駅の発車合図のメロディーの工夫など)。
- 価値の高い歴史的資源において、指定文化財制度を活用し、その保存と活用のしくみづくりをすすめる。
- 図書館・公民館との連携において、情報発信の工夫を行う(図書館の地元コーナーの充実、イベント実施、公民館でのマップや資料の配布、案内など)。
- 手賀沼の舟運事業との連携において、イベント用のシャトル水上バスの運行や、遊覧船としてのガイドつき船などの運航を行う。
- インフォメーションセンターにおいて、市民ガイドや子どもガイドの養成を進め、活動を展開する。
- 学校との連携において、子どもたちの職業体験の場としての文化ポイントの活用や、地域学習の材料としての活用をすすめる。

○計画の進行管理、評価について

- 進行管理においては、行政評価と連動させた年度ごとの進捗状況管理、及び効果の評価を行う。
- 手賀沼文化拠点整備計画としての評価を、複数年ごとに推移を踏まえて行う。
- 評価の状況について、広報やホームページにて公表し広く知らせていく。

